

○「有害鳥獣捕獲計画等概要」を学ぶ

(南丹市南丹地区(鳥獣害対策)小委員会第2回会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

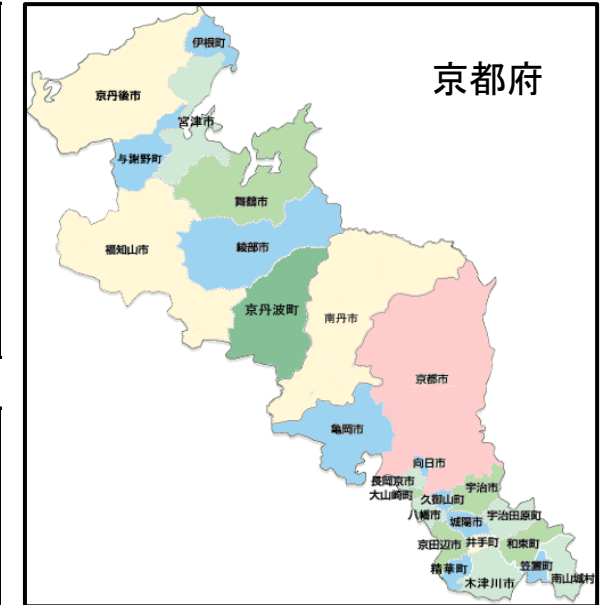
遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年3月5日午前10時30分～12時
- 場 所: 南丹市役所2号館3F 302会議室
- 出席者: 委員10人
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

- 京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。
- 農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、有害鳥獣の被害を減少させ農地を守ることが重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 南丹市鳥獣被害対策運営協議会(H31.2.12開催)の配布資料により、捕獲計画等概要や捕獲実績を農業委員(猟友会会員)から説明を受け、意見交換
- 猟友会(銃保持者)員の高齢化と会員が減少し、捕獲計画の達成が困難と思慮されること等から農業委員、農地最適化推進委員も積極的に「わな」の免許取得を推進する必要との意見
- 引き続き、意見交換を行い捕獲計画が達成されるよう支援等が必要との認識

4 活動結果

- 情報・意見交換 **1.5** 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援